



広島県北部で起きた土砂災害は、8月19日深夜から20日未明にかけての豪雨で土砂崩れが起き、その後連日報道されるほどの大被害となった。一連の報道を見聞きして感じる単純な疑問は、これは天災というよりは人災に近いのではないのかである。災害時の報道は、その性質上、正しく読むことは難しい。今回は、広島土砂災害の報道をどのように読むべきかについて解説する。

#### 第四十七話 広島土砂災害報道の読み方

第一に必要な点は、被災状況について「正確な事実確認」である。現在進行形の災害では、正確な事実確認は非常に難しい。憶測記事が多すぎる。被害状況の確認のためには、まず、ニュース報道を時系列の順に細かくチェックすることである。

新たな被災内容や、別の角度からの災害状況が報道されるたびに、全体像が大きく変わってしまう場合が少なくない。スマスコミの報道は、TVのキー局や全国紙だけでなく、スポーツ紙や地元紙もチェックし、事実確認することが求められる。

この際、重要なのは「抽象的な表現」に、疑問符をつけて読むことである。マスコミの報道は、大変時には、過剰報道になりがちになる。今回の報道でも、武田邦彦氏（中部大学教授）が指摘するように、「記録的」、「これまでに経験したことがない」、「観測史上はじめて」といった表現が、多すぎた。

21日午前の警察発表で、行方不明の者が突然大きく増えた。死者数と不明者数は、被害の大きさを図る目安となるのである。その発表数値が大きく変わる場合には、まず情報源を疑い、その背後事情を調べる必要がある。

第二に、ウェブサイトの画像や映像で、事実確認することである。「百聞は一見にしかず」である。ヘリコプターによるマスコミの取材は批判も大きいですが、現地の被災状況が視覚化されることは、プラス面が大きいといってよい。

勿論、注意すべき点は、画像であれ映像であり、取材者によって編集されていることである。都合のよい部分が強調されている可能性が高い。画像・映像の場合でも比較チェックが、大切である。たとえば、気象庁の報道だけでなく、民間気象会

社ウェザーニュースの報道も併せて、チェックすることが必要である。また、地元の人等によるマスコミ以外の画像や映像も大切である。

第三に、担当官庁（国土交通省、総務省、警察庁、消防庁、防衛省ほか）、気象庁、非常災害対策本部ほか、地元自治体の動きなどについて、チェックする必要がある。関係機関による災害対応のタイミングや判断の適切さを、チェックする。

気象庁では、予報の精度や警戒情報の発令の有無、防衛省では人命救助の災害派遣となどなど。政府では、「首相官邸で関係省庁災害対策会議を開く」（8/21）、「政府、非常災害対策本部に格上げ」（8/22）、「避難所の住民に住宅提供—政府対策会議」（8/23）といった動きの適切さである。

第四に、現地調査した学者や専門家の動きや発言について、チェックする。専門家による現地報告は、大切である。専門家は、今回の広島土砂災害だけでなく、日本全国や過去の土砂災害について、豊富な情報を持っているはずだからである。

今回の土砂災害では、土木学会では中国支部が現地調査団を派遣し、また同学会のウェブサイト「広島豪雨災害調査報告」を掲載している。それによると、「広島市内では人口増加に伴い山間部を切り開いた宅地開発が進められてきた。その一方で土砂災害も増えていた」などの指摘がなされてきている。

また、民間気象会社ウェザーニュースは、「広島 土砂災害 特設サイト」を開設し、土砂災害専門チームが解説している。同社は、気象庁とは異なる独自の気象情報を出す会社として、知られている。特設サイトでは、「広島市の豪雨は『バックビルディング型』と呼ばれるパターンで起きています」と、一早く説明している。

さらに、「広島市周辺は花崗岩が風化した『マサ土』が広く分布しています。マサ土は水を含むともろく崩れやすい特徴があり、過去には 1999 年の 6 月にも集中的な雨による大規模な土砂災害が発生しました」と、いち早く解説している。

第五に、災害についての問題点のチェックである。今回の広島土砂災害が、なぜ大きな災害に発展してしまったのかについての、問題点の抽出・整理である。この際、政治的配慮等の余計な配慮をしない適切なサイトを、チェックすべきである。

だれもが簡単に調べる方法としては、新聞の社説・論説サイトを比較参照することである。{社説 広島土砂災害}と検索する。社説は、ニュース報道と違い、新聞社による主義・主張が中心になり、問題点の指摘と対策が中心になっている。筆者としては、全国紙よりも、地方紙の方をお勧めする。

たとえば、「政府対応に緩みはないか」（高知新聞、8/23）、「救える命があったはずだ」（河北新報、8/22）、「避難勧告の検証必要だ」（沖縄タイムス、8/21）、「広島土砂災害 生かされなかった過去の教訓」（読売新聞、8/21）、といった具合である。

第六に、個人の「ブログ」をチェックすることである。個人のブログは、マスコミや政府などのサイトと異なり、自由に発言できるため、意外に本質を捉えた内容のものも少なくないが、バラツキも大きい。内容の信憑性や発言の意図に関して、注意する必要がある。それを踏まえて、次の検索に着手するのである。

ブログで見つけた見出しには、「広島県に『土砂災害』が多いのはなぜ?」、「渋滞により遅れた自衛隊の到着 現地の人間なら予測がつくこと」、「72 時間過ぎ広島土砂災害現地入りの救助隊」、「広島土砂災害 行方不明者数把握が問題」などなど。